

「畑作物薬剤抵抗性病害虫の防除に関する検討会」
意見交換概要

◎「意見交換」における主な意見等は以下のとおり。

①薬剤抵抗性病害虫対策の生産現場への啓発について

- ・ 今回の検討会で得られた情報を各県持ち帰り、現場対応への活用を期待。行政面からは最終的に生産者の薬剤抵抗性対策への意識を変え、現場対応が円滑に回るようにすることが課題。情報発信については反復が必要であるが、その手法は種々あり。農業者への情報発信の方法や内容等について、現場へどのようにフィードバックしていくか。

[取組事例]

- ・ 長野県では、25年2月に長野県病害虫シンポジウムとして薬剤抵抗性病害虫を取り上げ、26年2月には引き続き研修会として取り組む予定。長野県農作物病害虫・雑草防除基準には農薬の作用機構分類を掲載しているが、I R A C、F R A Cの分類などを現場で使うと、これは何かという質問が予想されるため、2月に開催予定の研修会ではメーカーも呼んで詳しく話を聞く予定。参集範囲に農家も含めているが、全県への浸透はまだ難しいかと思うものの、対策に向けた取組意識のある農家の関心は高く、このような研修会への出席は期待される。少しずつだが現場で理解を深めてもらいたいと考え、県として活動を続けている。
- ・ 静岡県ではJ Aの作物別部会に出席し、今回のような薬剤抵抗性についての研究成果を伝えている。研究で実際に携わった者が現場で話をつなげることが重要。現場で説明すると農家から色々と意見が出るので、持ち帰って研究にも活かしている。
- ・ 山口県では、薬剤の作用機構についてI R A C、F R A Cの分類を山口県農作物病害虫・雑草防除基準に掲載した。また、昨年からI R A C、F R A Cの分類を紹介し、同一系統剤の連用を避けるよう普及組織やJ Aに説明している。

②防除指導について

- ・ 薬剤耐性菌については、農薬使用ガイドラインに基づいて指導することも重要。I R A C、F R A Cの分類によるローテーション散布を現場で活かしていく必要がある。
- ・ 長野県では果樹の防除暦が農協単位で作成され、産地では地域全体で暦に沿って防除している。果樹はハダニが最も重要であり抵抗性が発生しやすい。果樹の場合、今年A剤を使用すれば、来年はB剤を使い、その次はA剤を使うといったようなローテーションを産地全体で実施している。農家にどのように抵抗性対策を行ってもらうかは、指導者の強い意志が重要。
- ・ 多種類の野菜栽培地域や隣が他人の畑であればローテーション散布は難しいとの声もある。ローテーション散布は、地域全体で取り組んでいく必要あり。